

令和3年度第1回「しがwebアンケートプラス調査」

(県内向け調査)の結果について

1 調査の目的

県政における喫緊の課題や重要事項について、インターネットを活用し適時迅速に県民の意識や意向を調査し、速やかに県の方針や県政運営に反映させるための基礎資料とする。

2 調査の概要

- (1) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の個人
- (2) 標本数 500 人
- (3) 調査方法 インターネットを利用し、パソコン、スマホ等により回答するWEB調査
- (4) 調査期間 令和3年9月 17 日(金)～ 9月23 日(木)
- (5) 調査会社 株式会社都市設計総合研究所

3 調査項目

介護や介護の仕事に関する意識調査

4 主な調査結果

Q1 介護サービスに対するあなたのお考えや知りたいこと、家族から「介護の仕事に就きたい」と相談されたらどうするかと、その理由などについて具体的に問う設問が含まれます。

以上をご了承いただきアンケートにご回答いただける場合は、「アンケートを開始する」をお選びください。

- | | |
|----------------|--------------------------|
| 1 位:アンケートを開始する | 97.6% |
| 2 位:アンケートを終了する | 2.4% (Q2 以下の設問での無回答者の比率) |

本アンケートでは、氏名や住所など個人を特定できる情報は入手しないものの、介護など、回答することによって家族の状況など微妙な設問が含まれていることから、そういった点を了承の上、協力できるかを、念のため確認する設問である。ほとんどの対象者が、協力的であった。

Q2 あなたや家族に介護が必要となったとき、介護サービスの提供は重要だと思いますか。(答えはひとつだけ)

- | | |
|------------------|-------|
| 1 位:重要だと思う | 90.2% |
| 2 位:あまり重要ではないと思う | 5.0% |
| 3 位:重要でないと思う | 2.4% |

・「重要だと思う」は、性別年代を問わず 80%を超え、関心の高さが窺える。特に、50 歳代以上では90%以上と高い関心を寄せている。なお、女性は男性よりも 2.5%高くなっている。

Q3 あなたは、介護サービスの手続きを知りたいですか。(答えはひとつだけ)

- | | |
|--------------------|-------|
| 1 位:知っているが、さらに知りたい | 25.4% |
| 2 位:知らないが、知りたい | 59.0% |
| 3 位:知りたくない | 13.2% |

・「知らないが、知りたい」が最も多く、59.0%となっている。特に、40歳代では65.9%に上り、自分の親の介護を控えている世代の関心が高くなっているものとみられる。

・「知っているが、さらに知りたい」と「知らないが、知りたい」を合わせると、84.4%となっており、介護サービスの詳細について、一層の情報提供が求められる。

Q4 Q3 で「知っているが、さらに知りたい」、「知らないが、知りたい」を選択された方にお尋ねします。どのようなことを知りたいですか。(答えはいくつでも)

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1 位:介護サービスにかかる費用 | 59.2% |
| 2 位:利用までの流れ | 52.8% |
| 3 位:介護が必要になるきっかけ、相談するタイミング | 52.1% |
| 4 位:相談窓口の場所や連絡先 | 50.9% |
| 5 位:介護サービスの種類や選び方 | 48.8% |
| 6 位:要介護認定の手续 | 43.8% |
| 7 位:在宅介護の方法 | 33.2% |
| 8 位:認知症 | 31.8% |
| 9 位:仕事と家族の介護との両立 | 22.0% |
| 10 位:介護休暇や介護休業の取得 | 14.2% |
| 11 位:わからない | 4.7% |
| 12 位:その他 | 0.2% |

・「介護サービスにかかる費用」を選択した人が最も多く、59.2%となっており、特に50歳代以上では、62%弱に上るなど、介護費用に対する関心の高さが目立つ。

・男女差の大きい項目は、「介護サービスの種類や選び方」(男性43.4%、女性56.2%)、「仕事と家族の介護との両立」(男性18.0%、女性27.5%)、「介護サービスにかかる費用」(男性56.6%、女性62.9%)となっており、介護が発生することとなった場合、たちまち問題となる項目について女性の関心の高さが窺える。

・全体として、介護そのものの情報を知りたいと考える人が多く、介護する方の立場としての「仕事と家族の介護との両立」、「介護休暇や介護休業の取得」について知りたいと回答した人は、比較的少ない。

Q5 Q4で選択したことは、市役所や町役場、地域包括支援センター(※)以外なら、どのような場所で知りたいですか。(答えはいくつでも)

※ 地域包括支援センター:保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員等の専門職が連携して、認知症相談を初め、高齢者介護の相談、介護サービスの紹介、高齢者の虐待・権利擁護等の相談に応じています。

- | | |
|------------------|-------|
| 1 位:インターネットによる相談 | 41.8% |
| 2 位:介護事業所 | 38.4% |
| 3 位:地域のボランティア等団体 | 18.2% |
| 4 位:自分が勤めている職場 | 13.2% |

5 位:特にない	9.8%
6 位:その他	0.4%

・昨今のネット社会を反映してか、「インターネットによる相談」が最も多く、41.8%であり、次いで「介護事業所」の 38.4%と続く。なお、60 歳以上に限ると、「介護事業所」が最も多く、40.1%、次いで「インターネットによる相談」38.5%となっている。

Q6 介護職員を見たり、介護職員と話したことがありますか(答えはひとつだけ)

1 位:ある(働いている姿を見た、画像や映像で見た、知人が介護職員、なども含む)	52.4%
2 位:ない	45.2%

・介護サービスの重要性をあげる人が多い割には、「介護職員を見たり、話したことがない」が 45.2%あり、60 歳以上でも 40.7%となっている。
 ・「ある」を男女別でみると、男性では49.8%となっているが、女性では56.1%となっており、男性と比較し、女性にとって介護サービスが身近な存在となっているものと考えられる。

Q7 近隣の介護事業所を見たり、訪問したりしたことがありますか(答えはひとつだけ)

1 位:ある(見たことがある、イベント等で入ったことがある、場所を知っている など含む)	34.8%
2 位:ない	62.8%

・「介護事業所を見たり、訪問したことがある」は34.8%、「ない」は62.8%となっており、介護事業所まで足を運ぶ人は少数派となっている。

Q8 自分の子どもなど、家族から「介護の仕事に就きたい」と相談されたらどうされますか(答えはひとつだけ)

1 位:賛成はしないが、本人の意志に任せる	46.2%
2 位:賛成する	25.0%
3 位:わからない	18.6%
4 位:反対する、別の仕事を勧める	7.8%

・「賛成する」は 25.0%にとどまり、介護の仕事への就職に否定的な人は、「賛成はしないが、本人の意志に任せる」、「反対する、別の仕事を勧める」を合わせ、半数以上の 54.0%に上る。
 ・「反対する、別の仕事を勧める」については、男性の方が女性よりも3.3%高くなっている。

Q9 Q8 で「3 反対する、別の仕事を勧める」、「わからない」を選択された方にお尋ねします。どのような理由からですか。(答えはいくつでも)

1 位:体力的にきつい	54.5%
2 位:給料が安い	53.0%
3 位:精神的にきつい	37.9%
4 位:休日が少ない	16.7%
感染症などの危険が多い	16.7%
6 位:雇用が不安定	15.9%

7 位:福利厚生が不十分	15.2%
8 位:経営が不安定	12.1%
資格や技術が少ない	12.1%
10 位:その他	9.1%
11 位:他人からのイメージが悪い	6.8%
12 位:やりがいがない	3.0%
13 位:勤務地が遠い	1.5%

・「体力的にきつい」、「給料が安い」、「精神的にきつい」など、厳しい勤務や低待遇をあげた人の割合が多数に上る。

・男女別の差の大きい項目は、「体力的にきつい」(男性 45.7%、女性 68.6%)、「感染症などの危険が多い」(男性 9.9%、女性 27.5%)、「休日が少ない」(男性 11.1%、女性 25.5%)となっており、女性の方が体力や衛生面等で不安を感じる人の割合が高く、特に 40 歳代女性において、この傾向が顕著である。

Q10 いわゆる「団塊の世代」がすべて 75 歳以上となる 2025 年、さらに「団塊ジュニア世代」が 65 歳以上となる 2040 年まで高齢化が急速に進み、例えば、増大する介護ニーズに対して十分な人材が確保できないなどの課題があることを知っていますか。(いわゆる「2025 年問題」と「2040 年問題」)(答えはひとつだけ)

1 位:「2025年問題」も「2040年問題」も知らない	43.4%
2 位:「2025 年問題」は知っているが、「2040 年問題」は知らない	26.4%
3 位:「2025 年問題」も「2040 年問題」も知っている	25.4%
4 位:「2025 年問題」は知らないが、「2040 年問題」は知っている	2.4%

・『「2025年問題」も「2040年問題」も知らない』が 43.4%となっており、認知度はかなり低い。

・男女別の差の大きい項目は、『「2025年問題」も「2040年問題」も知らない』(男性 39.3%、女性 49.3%)、『「2025年問題」も「2040年問題」も知っている』(男性 30.5%、女性 18.0%)となっており、特に女性の認知度が低い。

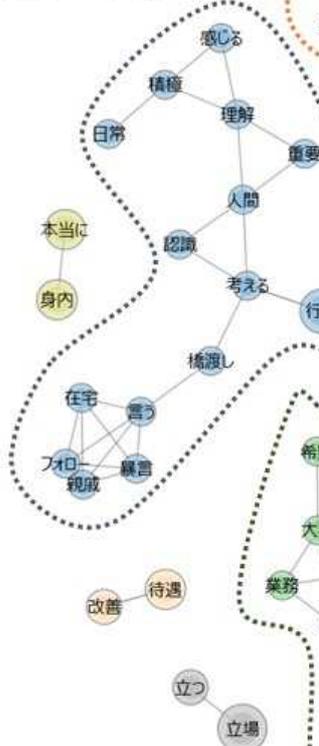
Q11 あなたは介護職員にどのような役割を期待しますか(自由記述)

500名のうち、361名の方(72.2%)からご意見をいただいた。

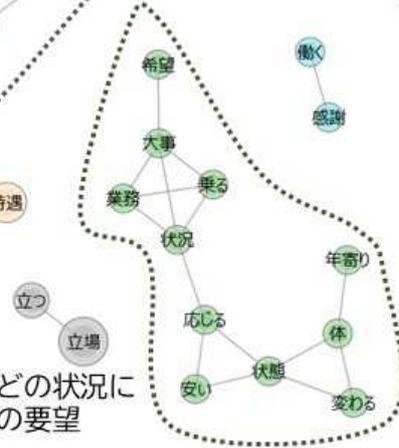
《主なご意見》

- ・親切、丁寧、誠実、家族や本人に寄り添った優しい対応などを挙げた人は、67人であった。
- ・昨今、高齢者施設での入所者への虐待行為が報道されることもあるためか、虐待防止を望む声が 5 人あった。
- ・介護職員への期待する役割という設問の趣旨からは外れるが、給与を含む待遇改善が必要との意見が 9 人みられた。

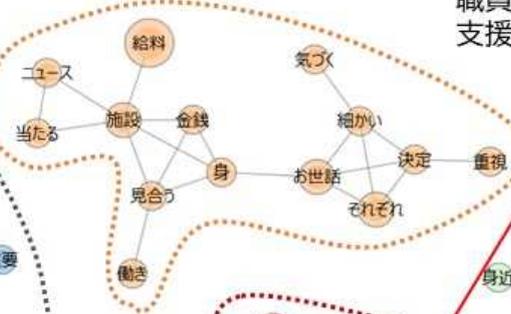
要介護者への理解および
家族介護者への支援の要望



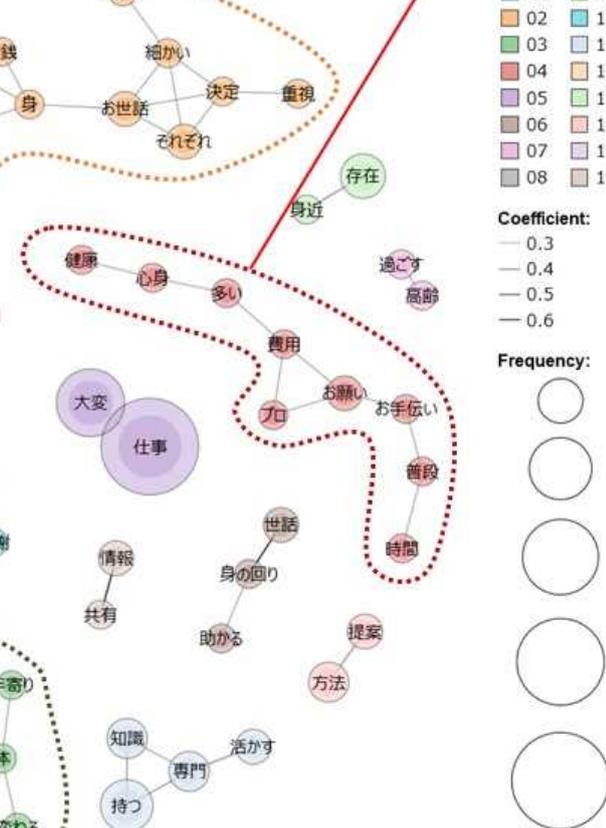
要介護者の体などの状況に
合わせた介護への要望



介護職員および施設の待遇改善
とサービスの向上の要望



介護のプロとしての介護
職員からの介護現場への
支援の要望



Subgraph:

01	09
02	10
03	11
04	12
05	13
06	14
07	15
08	16

Coefficient:

- 0.3
- 0.4
- 0.5
- 0.6

Frequency:

- 5
- 10
- 15
- 20
- 25